第1日目 6月1日（木） 第1会場 1F メインホール

教育講演 1　9:00〜11:00

デルマドロームから学ぶ皮膚と全身臓器のクロストーク

オーガナイザー：杉田　和成（佐賀大）
小寺　雅也（JCHO 中京病院）

［レベル：Basic］

EL1-1.　**血液疾患とデルマドローム**
9 : 00〜9 : 30　佐々木奈津子〈ささき　なつこ〉
産業医科大学皮膚科学教室

EL1-2.　**糖尿病とデルマドローム**
9 : 30〜10 : 00　中西　健史〈なかにし　たけし〉
明治国際医療大学皮膚科

EL1-3.　**癌とデルマドローム**
10 : 00〜10 : 30　安田　正人〈やすだ　まさひと〉
群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学

EL1-4.　**消化器疾患とデルマドローム**
10 : 30〜11 : 00　國府　拓〈こくぶ　ひらく〉
滋賀医科大学皮膚科

令和5年度 Master of Dermatology(Maruho)授賞式・受賞記念講演　12:25〜12:45

座長：天谷　雅行（慶應義塾大）

マルホ.　**小麦依存性運動誘発アナフィラキシーの主要アレルゲン ω5-グリアジンの同定に基づく高精度診断法の開発と病態解明及び低アレルゲン小麦の開発と実用化**
森田　栄伸[1,2]〈もりた　えいしん〉
株式会社メディカル工笑[1]，島根大学名誉教授[2]

令和5年度研究費ならびに研究基金受領者・プロジェクト助成授与式　12:45〜14:20

座長：天谷　雅行（慶應義塾大）

令和5年度日本皮膚科学会基礎医学研究費（資生堂寄付）受領者授与式

重症薬疹の病態解明と新規バイオマーカーの開発
長谷川瑛人〈はせがわ　あきと〉
新潟大学医歯学総合病院皮膚科

皮膚創傷治癒を制御するエピジェネティクス因子の探索
渡邉　美佳〈わたなべ　みか〉
北海道大学医学研究院皮膚科学教室

DOHaD 研究モデルを用いたアトピー性皮膚炎の超早期ライフステージからの機序解明
加藤　雪彦〈かとう　ゆきひこ〉
東京医科大学八王子医療センター皮膚科

全身性強皮症におけるリツキシマブに除去抵抗性のB細胞の単一細胞解析
久住　　藍〈くずみ　あい〉
東京大学大学院医学系研究科皮膚科学

inducible Skin-associated lymphoid tissue（iSALT）における腸型B細胞の機能解析
小亀　敏明〈こがめ　としあき〉
京都大学大学院医学研究科皮膚科学

神経線維腫症I型における，臨床型別の腫瘍微小環境とT細胞の相互作用の検討
吉岡　華子〈よしおか　はなこ〉
大阪大学大学院医学系研究科皮膚科寄附講座

令和５年度日本皮膚科学会炎症性皮膚疾患研究費（アッヴィ助成）受領者授与式

サルコイドーシスの肉芽腫形成におけるエネルギー代謝経路の同定
中溝　　聡〈なかみぞ　さとし〉
京都大学大学院医学系研究科皮膚科

令和５年度日本皮膚科学会皮膚医学研究基金（ロート製薬寄付）受領者授与式

異種移植モデルを用いた乳房外パジェット病に対する新規治療法開発
柳　　輝希〈やなぎ　てるき〉
北海道大学 北海道大学病院皮膚科

レジリエンスの破綻に起因する乾癬の慢性化・難治化の病態解明
柴田　　彩〈しばた　さやか〉
東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科

令和５年度日本皮膚科学会基礎研究助成（ノバルティス ファーマ寄付）受領者授与式

皮膚免疫を基盤とした全身性強皮症における多臓器線維化メカニズムの解析
浅野　善英〈あさの　よしひで〉
東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座皮膚科学分野

単一細胞解析の情報と連携させた新しい天疱瘡の病勢評価法の開発
山上　　淳〈やまがみ　じゅん〉
東京女子医科大学皮膚科

白斑真皮の抗酸化能獲得に関する研究
種村　　篤〈たねむら　あつし〉
大阪大学大学院医学系研究科皮膚科

2022年度日本皮膚科学会／ファイザー公募型医学教育プロジェクト助成 授与式

ビジネス手法・IoT技術を活用した，アトピー性皮膚炎患者に対するパーソナライズドケアを支援するプラットフォームの開発
慶應義塾大学

アトピー性皮膚炎に関連する医療への平等なアクセスの促進と，すべての医療従事者の負担軽減
長崎大学

教育講演 8　14:30〜16:30

アトピー性皮膚炎の治療アップデート〜新規薬剤をうまく使いこなすには〜

オーガナイザー：天野　博雄（岩手医大）
中原　剛士（九州大）

[レベル：Basic／Advanced]

EL8-1.　**アトピー性皮膚炎の新時代における外用療法を考える**
14：30〜15：00　田中　暁生〈たなか　あきお〉
広島大学大学院医系科学研究科皮膚科学

EL8-2.　**実臨床におけるデュピルマブ**
15：00〜15：30　波多野　豊〈はたの　ゆたか〉
大分大学医学部皮膚科学講座

EL8-3.　**各経口 JAK 阻害薬の特徴と使い分け**
15：30〜16：00　佐伯　秀久〈さえき　ひでひさ〉
日本医科大学皮膚科

EL8-4.　**ネモリズマブの特徴**
16：00〜16：30　石氏　陽三〈いしうじ　ようぞう〉
東京慈恵会医科大学皮膚科学講座

会頭特別企画 1　16:40〜17:40

座長：浅野　善英（東北大）

PSP1.　**Molecular diversity in systemic sclerosis：implications for clinical management**
Christopher Denton[1,2]
Experimental Rheumatology, UCL Division of Medicine[1], Consultant Rheumatologist, Royal Free London NHS Foundation Trust, London, UK[2]

第1日目 6月1日（木） 第2会場 5F 503

教育講演2 9:00〜11:00

全身性強皮症の診療を楽しもう

オーガナイザー：佐藤　伸一（東京大）
長谷川　稔（福井大）

［レベル：Basic／Advanced／Update］

EL2-1.　全身性強皮症の病態
9：00〜9：30
吉崎　　歩〈よしざき　あゆみ〉
東京大学大学院医学系研究科皮膚科

EL2-2.　強皮症の皮膚硬化
9：30〜10：00
松下　貴史〈まつした　たかし〉
金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚科

EL2-3.　強皮症の合併症の診断と治療のポイント
10：00〜10：30
茂木精一郎〈もてぎ　せいいちろう〉
群馬大学大学院医学系研究科皮膚科

EL2-4.　強皮症の血管障害
10：30〜11：00
浅野　善英〈あさの　よしひで〉
東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座皮膚科学分野

ランチョンセミナー1 11:15〜12:15

気持ちが伝わる，心がつながる〜AD患者と踏み出すその一歩〜

座長：髙森　建二（順天堂大名誉教授）
島田　眞路（山梨大特別顧問）

LS1-1.　今一度考える，患者コミュニケーションの重要性〜治療選択の為のPRO活用術〜
益田　浩司〈ますだ　こうじ〉
京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学

LS1-2.　こんなときに使いたい！〜日常診療でのPRO活用のポイント〜
小澤　麻紀[1,2]〈おざわ　まき〉
東北大学皮膚科[1]，東照宮駅前皮ふ科クリニック[2]

共催：サノフィ株式会社

教育講演 9　14:30〜16:30

【臨床応用編】白癬菌抗原キット

…オーガナイザー：常深祐一郎（埼玉医大）
田邉　洋（天理よろづ相談所病院）

[レベル：Advanced]

14 : 30〜14 : 40　**はじめに**

EL9-1.　**白癬菌抗原キットを使用した爪白癬診断手法への患者反応**
14 : 40〜15 : 05　林部　一人〈はやしべ　かずひと〉
はやしべ皮フ科

EL9-2.　**Non-dermatophytes による爪真菌症と白癬菌抗原キットとの折り合い**
15 : 05〜15 : 30　望月　隆〈もちづき　たかし〉
金沢医科大学医学部皮膚科

EL9-3.　**真菌の歴史と白癬菌抗原キットについて**
15 : 30〜15 : 55　和田　康夫〈わだ　やすお〉
赤穂市民病院皮膚科

EL9-4.　**白癬菌抗原キットの使用経験**
15 : 55〜16 : 20　野口　博光〈のぐち　ひろみつ〉
のぐち皮ふ科

16 : 20〜16 : 30　**総合討論：白癬菌抗原キットをどう活用するか**

イブニングセミナー 1　17:50〜18:50

免疫原性炎症の最新知見から考える蕁麻疹治療

…座長：秀　道広（広島市民病院/広島大病院）
茂木精一郎（群馬大）

ES1-1.　**トレンドになりつつある病態からの蕁麻疹の捉え方**
―アレルギーと自己免疫の両面から―
福永　淳〈ふくなが　あつし〉
大阪医科薬科大学医学部感覚器機能形態医学講座皮膚科学

ES1-2.　**液性免疫から考える蕁麻疹・自己免疫疾患**
藤本　学〈ふじもと　まなぶ〉
大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学

共催：ノバルティス ファーマ株式会社　メディカル・アフェアーズ本部

第1日目 6月1日（木） 第3会場 5F 501

教育講演3 9:00〜11:00

表皮の“かたち”からみえてくる（炎症性）皮膚疾患

オーガナイザー：門野　岳史（聖マリアンナ医大）
久保　亮治（神戸大）

［レベル：Basic］

EL3-1. アトピー性皮膚炎ではこうして皮疹のかたちが作られる
9：00〜9：30
波多野　豊〈はたの　ゆたか〉
大分大学医学部皮膚科学講座

EL3-2. 乾癬および乾癬様皮疹ではこうして皮疹のかたちが作られる
9：30〜10：00
岸部　麻里〈きしべ　まり〉
旭川医科大学皮膚科学講座

EL3-3. 重症薬疹ではこうして皮膚のかたちが崩れる
10：00〜10：30
小川　陽一〈おがわ　よういち〉
山梨大学大学院医学系研究科皮膚科

EL3-4. 水疱症ではこうして皮膚のかたちが崩れる
10：30〜11：00
新熊　悟〈しんくま　さとる〉
奈良県立医科大学皮膚科

ランチョンセミナー2 11:15〜12:15

アメリカで29年の歴史と爆発的人気を誇るJan Marini Skin Research ～あなたのお肌の悩みに合わせたカスタマイズ治療～

座長：今泉　明子（今泉スキンクリニック）

LS2-1. 最小限のダウンタイムで最大限のレーザー治療効果を得るためには？
—RECOVERY ENHANCEMENT SYSTEM のもたらす効果
今泉　明子〈いまいずみ　あきこ〉
医療法人社団青泉会今泉スキンクリニック

LS2-2. 瘢痕を伴う遷延性痤瘡に対する複合的治療方法
奥　謙太郎〈おく　けんたろう〉
HILLS GRACE CLINIC

共催：サージテック株式会社

教育講演 10　14:30〜16:30

乾癬の患者の全身を診る〜疫学から治療まで

•••オーガナイザー：今福　信一（福岡大）
多田　弥生（帝京大）

[レベル：Advanced]

EL10-1.　乾癬の疫学，遺伝的背景
14 : 30〜15 : 00　馬渕　智生〈まぶち　ともたか〉
東海大学医学部専門診療学系皮膚科学

EL10-2.　乾癬の病態と併存疾患
15 : 00〜15 : 30　多田　弥生〈ただ　やよい〉
帝京大学医学部皮膚科学講座

EL10-3.　乾癬の内服療法
15 : 30〜16 : 00　鎌田　昌洋〈かまた　まさひろ〉
帝京大学医学部皮膚科

EL10-4.　乾癬の生物学的製剤治療の実際
16 : 00〜16 : 30　今福　信一〈いまふく　しんいち〉
福岡大学医学部皮膚科学教室

イブニングセミナー 2　17:50〜18:50

乾癬の新しい治療シークエンスを考える

••••••••••••••••••座長：池田　志斈（順天堂大）
馬渕　智生（東海大）

ES2-1.　乾癬内服薬戦国時代突入！？オテズラ®の生きる道は？
〜JAK，TYK2 の登場で PDE4 の最適使用を考える〜
山﨑　文和〈やまざき　ふみかず〉
東海大学皮膚科

ES2-2.　アプレミラストの今後を考える〜多様化する病態理解と乾癬治療〜
柴田　　彩〈しばた　さやか〉
東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科

共催：アムジェン株式会社

第1日目 6月1日（木） 第4会場 5F 502

教育講演4 9:00〜11:00

細胞接着と皮膚疾患：基礎知識と最新知見

•••オーガナイザー：青山　裕美（川崎医大）
氏家　英之（北海道大）

［レベル：Basic／Advanced］

EL4-1. ヒト表皮角化幹細胞における細胞接着および細胞骨格の制御機構とその加齢変化
9：00〜9：30
難波　大輔〈なんば　だいすけ〉
東京大学医科学研究所老化再生生物学分野

EL4-2. 表皮基底膜部の接着構造と制御機構
9：30〜10：00
小住　英之〈こすみ　ひでゆき〉
北海道大学大学院医学研究院皮膚科学教室

EL4-3. ヘミデスモソーム接着分子と関連皮膚疾患
10：00〜10：30
石井　文人〈いしい　のりと〉
久留米大学医学部皮膚科学教室

EL4-4. 表皮細胞間の接着障害と棘融解を生じる皮膚疾患
10：30〜11：00
山本　剛伸[1,2]〈やまもと　たけのぶ〉
川崎医科大学総合医療センター皮膚科[1]，川崎医科大学皮膚科[2]

ランチョンセミナー3 11:15〜12:15

アトピー性皮膚炎の病態メカニズムに関する最新の話題

••座長：井川　　健（獨協医大）
片山　一朗（大阪公立大）

LS3-1. アトピー性皮膚炎の新規外用療法の作用機序：脂質メディエーターの観点から
本田　哲也〈ほんだ　てつや〉
浜松医科大学皮膚科

LS3-2. アトピー性皮膚炎の病態形成における好塩基球の役割
鳥山　　一〈からすやま　はじめ〉
東京医科歯科大学高等研究院炎症・感染・免疫研究室

共催：大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部

教育講演 11　14:30〜16:30

白斑：病態，鑑別，そして治療の最前線その2

オーガナイザー：佐野　栄紀（高知大）
室田　浩之（長崎大）

［レベル：Basic］

EL11-1.　白斑ガイドラインの概説
14 : 30〜15 : 00　大磯　直毅〈おおいそ　なおき〉
近畿大学奈良病院皮膚科

EL11-2.　疫学および病型ごとの最適治療
15 : 00〜15 : 30　種村　　篤〈たねむら　あつし〉
大阪大学大学院医学系研究科皮膚科

EL11-3.　白斑に対する光線療法のポイントと最新情報
15 : 30〜16 : 00　森田　明理〈もりた　あきみち〉
名古屋市立大学大学院医学研究科加齢・環境皮膚科学

EL11-4.　白斑治療における JAK および PDE4 阻害薬
16 : 00〜16 : 30　井上紳太郎〈いのうえ　しんたろう〉
岐阜薬科大学香粧品健康学講座

イブニングセミナー 3　17:50〜18:50

座長：浅野　善英（東北大）

ES3.　キレイが実感できる漢方薬〜胃腸と皮膚の深い関係〜
野本真由美〈のもと　まゆみ〉
野本真由美クリニック銀座

共催：株式会社ツムラ

第1日目 6月1日（木） 第5会場 3F 301

教育講演 5　9:00〜11:00

皮膚寄生虫感染症の臨床と対応 ……オーガナイザー：夏秋　優（兵庫医大）
和田　康夫（赤穂市民病院）

［レベル：Basic］

EL5-1.　疥癬診療ガイドラインのポイントと治療のコツ
9：00〜9：30
和田　康夫〈わだ　やすお〉
赤穂市民病院皮膚科

EL5-2.　アタマジラミ症の現状と対応
9：30〜10：00
山口さやか〈やまぐち　さやか〉
琉球大学病院皮膚科

EL5-3.　ニキビダニ〜その不思議な生態と病原性について〜
10：00〜10：30
田邉　洋〈たなべ　ひろし〉
天理よろづ相談所病院

EL5-4.　マダニ刺症の実態と対応
10：30〜11：00
夏秋　優〈なつあき　まさる〉
兵庫医科大学皮膚科学

ランチョンセミナー 4　11:15〜12:15

座長：青山　裕美（川崎医大）

LS4.　実践的なリツキシマブによる天疱瘡治療を考える
山上　淳〈やまがみ　じゅん〉
東京女子医科大学皮膚科

共催：全薬工業株式会社

教育講演 12　14:30〜16:30

膠原病における自己抗体の意義 ……オーガナイザー：藤本　学（大阪大）
松下　貴史（金沢大）

［レベル：Advanced］

EL12-1.　メモリーB細胞・プラズマ細胞の機能・生成メカニズム
14：30〜15：00
黒崎　知博[1,2]〈くろさき　ともひろ〉
大阪大学免疫学フロンティア研究センター分化制御研究室[1]，
理化学研究所生命医科学研究センター分化制御研究チーム[2]

EL12-2.　ミスフォールド蛋白/HLA クラスII 複合体と膠原病
15：00〜15：30
荒瀬　規子[1]〈あらせ　のりこ〉，荒瀬　尚[2,3]，藤本　学[1,3]
大阪大学大学院医学系研究科皮膚科[1]，大阪大学微生物病研究所免疫化学[2]，
大阪大学免疫学フロンティア研究センター[3]

EL12-3.　皮膚筋炎における自己抗体の意義
15 : 30〜16 : 00　松下　貴史〈まつした　たかし〉
金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚科

EL12-4.　全身性強皮症における自己抗体の意義
16 : 00〜16 : 30　吉崎　　歩〈よしざき　あゆみ〉
東京大学大学院医学系研究科皮膚科

イブニングセミナー４　17:50〜18:50

より早くキレイを目指すニキビ治療のために

座長：山本　有紀（和歌山県立医大）
小林　美和（こばやし皮膚科クリニック）

ES4-1.　化粧品を治療に活かす〜ニキビ治療のトータルマネジメント〜
山本　晴代〈やまもと　はるよ〉
近畿大学病院皮膚科

ES4-2.　ニキビ治療の展望〜メイクアップ指導の有用性
坂田真理子〈さかた　まりこ〉
和歌山県立医科大学皮膚科

共催：アクセーヌ株式会社

第1日目 6月1日（木） 第6会場 3F 302

教育講演6 9:00〜11:00

皮膚腫瘍に対する免疫チェックポイント阻害剤による治療の最前線

オーガナイザー：藤澤　康弘（愛媛大）
藤村　　卓（東北大）

[レベル：Advanced]

EL6-1. **進行期メラノーマにおける免疫チェックポイント阻害剤による治療：Update**
9：00〜9：30
藤澤　康弘〈ふじさわ　やすひろ〉
愛媛大学大学院医学系研究科

EL6-2. **メラノーマの術後補助療法：海外エビデンスと本邦における位置づけ**
9：30〜10：00
藤村　　卓〈ふじむら　たく〉
東北大学皮膚科

EL6-3. **メルケル細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害薬**
10：00〜10：30
並川健二郎〈なみかわ　けんじろう〉
国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科

EL6-4. **免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連事象**
10：30〜11：00
吉野　公二〈よしの　こうじ〉
公益財団法人がん研究会有明病院皮膚腫瘍科

ランチョンセミナー5 11:15〜12:15

座長：金蔵　拓郎（鹿児島大）

LS5. **進化したアトピー性皮膚炎治療に活かしたい漢方**
小林　裕美〈こばやし　ひろみ〉
こばやし皮膚科クリニック

共催：クラシエ薬品株式会社

教育講演13 14:30〜16:30

HPV，ヘルペスウイルス基礎と臨床update

オーガナイザー：渡辺　大輔（愛知医大）
清水　　晶（金沢医大）

[レベル：Advanced]

EL13-1. **皮膚科領域における HPV 検出法と RNA in situ hybridization の試み**
14：30〜15：00
山口　礼門〈やまぐち　れいもん〉，落合咲和子，高宮　悠子，安澤　数史，
清水　　晶
金沢医科大学皮膚科学講座

EL13-2. **スキャナ搭載型 CO2 レーザーによる難治性足底疣贅治療**
15 : 00〜15 : 30
鹿児山　浩〈かごやま　こう〉
富山大学学術研究部医学系皮膚科学

EL13-3. **単純疱疹（Herpes Simplex：HS）の抗体価，核酸検査を再考する**
15 : 30〜16 : 00
宮地　素子〈みやち　もとこ〉，今福　信一
福岡大学病院医学部皮膚科学教室

EL13-4. **静岡スタディーからみえる帯状疱疹関連痛のリスク因子**
16 : 00〜16 : 30
橋爪　秀夫〈はしづめ　ひでお〉
磐田市立総合病院

イブニングセミナー５　17:50〜18:50

座長：森脇　真一（大阪医科薬科大）

ES5. **遺伝性血管性浮腫治療の進歩と今後の治療戦略**
福田　知雄〈ふくだ　ともお〉
埼玉医科大学総合医療センター皮膚科

共催：CSL ベーリング株式会社

第1日目 6月1日（木） 第7会場 3F 303

教育講演 7　9:00〜11:00

膿疱症の最先端 ……オーガナイザー：金蔵　拓郎（鹿児島大）
杉浦　一充（藤田医大）

［レベル：Basic／Advanced］

EL7-1.　膿疱症の病理
9：00〜9：30　押谷　佳美〈おしたに　よしみ〉
押谷皮膚科

EL7-2.　急性汎発性発疹性膿疱症　基本から update
9：30〜10：00　水川　良子〈みずかわ　よしこ〉
杏林大学医学部皮膚科

EL7-3.　膿疱性乾癬 Update
10：00〜10：30　杉浦　一充〈すぎうら　かずみつ〉
藤田医科大学医学部皮膚科学

EL7-4.　掌蹠膿疱症 Update
10：30〜11：00　村上　正基〈むらかみ　まさもと〉
愛媛大学大学院医学系研究科皮膚科学

ランチョンセミナー 6　11:15〜12:15

遺伝性血管性浮腫：病態と治療 ……座長：長谷川　稔（福井大）
竹腰　知紀（国際医療福祉大三田病院）

LS6-1.　HAE 診療ガイドラインで推奨される検査と治療
秀　　道広〈ひで　みちひろ〉
広島市民病院

LS6-2.　HAE 治療の実際
本田　大介〈ほんだ　だいすけ〉
千葉大学医学部附属病院腎臓内科

共催：鳥居薬品株式会社

一般演題 7　14:30〜15:30

膠原病 ……座長：濱口　儒人（金沢大）
住田　隼一（東京大）

O7-1（P17-1）　全身性強皮症の消化管障害に対する UCLA SCTC GIT 2.0 を用いた横断的検討
久田　智子〈ひさだ　さとこ〉，竹内　早紀，戸澤　貴久，山田　益丈，伊藤　有美，小寺　雅也
JCHO中京病院

O7-2 (P17-13)　全身性強皮症患者における capillaroscopy を用いたトシリズマブの治療効果判定の検討

瀬川雄一朗〈せがわ　ゆういちろう〉，照井　　仁，高橋　拓矢，井川　徹也，
浅野　善英
東北大学大学院医学系研究科皮膚科

O7-3 (P17-5)　当科における全身性エリテマトーデス（SLE）に対するアニフロルマブ投与症例の検討

伏田奈津美〈ふしだ　なつみ〉，堀井　幹喜，大石　京介，松下　貴史
金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚分子病態学

O7-4 (P17-3)　皮膚筋炎において血清 IL-8 値は筋炎の病勢に相関する

小西　里沙[1,2]〈こにし　りさ〉，市村　裕輝[1]，田中　亮多[1,2]，奥根　真里[2]，
原　モナミ[3]，清水　正樹[4]，中岸　保夫[5]，西野　一三[6]，乃村　俊史[2]，沖山奈緒子[1]
東京医科歯科大学皮膚科[1]，筑波大学皮膚科[2]，筑波大学小児科[3]，
東京医科歯科大学小児科[4]，兵庫県立こども病院リウマチ科[5]，
国立精神・神経医療研究センター[6]

O7-5 (P17-10)　全身性強皮症に伴う間質性肺疾患に対するニンテダニブ使用例 36 例のまとめ

堀井　幹喜〈ほりい　もとき〉，松下　貴史
金沢大学皮膚科

O7-6 (P17-4)　全身性強皮症に対するリツキシマブの長期投与における有効性と血清免疫グロブリンの臨床的意義

久住　　藍〈くずみ　あい〉，江畑　　慧，深澤　毅倫，佐藤　伸一，吉崎　　歩
東京大学大学院医学系研究科皮膚科

O7-7 (P17-12)　抗 SMN 抗体陽性びまん皮膚硬化型全身性強皮症，多発性筋炎のオーバーラップ症候群の 1 例

齋藤　暢胤[1]〈さいとう　まさつぐ〉，内山　明彦[1]，金　　滋仁[1]，遠藤　雪恵[1]，
安田　正人[1]，青木　　蕉[2]，池田　佳生[2]，茂木精一郎[1]
群馬大学大学院医学系研究科皮膚科[1]，群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科[2]

O7-8 (P17-15)　全身性強皮症と掌蹠膿疱症の合併例に対するグセルクマブの使用経験

三上　嘉子〈みかみ　よしこ〉，照井　　仁，高橋　拓矢，瀬川雄一朗，井川　徹也，
浅野　善英
東北大学病院皮膚科

一般演題 8　15:30〜16:30

脱毛症，附属器疾患，代謝異常症，その他

座長：伊藤　泰介（浜松医大）
木下　美咲（杏林大）

O8-1 (P38-2)　バリシチニブ治療による重症円形脱毛症患者の頭部脱毛症状改善経過について

大山　　学[1]〈おおやま　まなぶ〉，Brett King[2]，Jerry Shapiro[3]，
Alexander Egeberg[4]，Yves Dutronc[5]，Yun-Fei Chen[5]，Wen-Shuo Wu[5]，
Yuxin Ding[5]，Najwa Somani[5]，Rodney Sinclair[6]
杏林大学[1]，Yale Sch Med[2]，NY Univ[3]，Bispebjerg Hosp[4]，Eli Lilly and Company[5]，
Melbourne Univ[6]

O8-2（P38-3）　重症円形脱毛症患者の SALT による頭部の反応別での眉毛/睫毛の再発毛（バリシチニブ BRAVE-AA 試験）

伊藤　泰介[1]〈いとう　たいすけ〉，Maryanne M Senna[2]，Ohsang Kwon[3]，
Bianca Maria Piraccini[4]，Rodney Sinclair[5]，Susan Ball[6]，Wen-Shuo Wu[6]，
井阪　圭孝[7]，竹ノ内一雅[7]，Brett King[8]
浜松医科大学[1]，Harvard Medical School[2]，Seoul National Univ[3]，Univ Bologna[4]，
Sinclair Dermatol[5]，Eli Lilly and Company[6]，日本イーライリリー[7]，Yale Sch Med[8]

O8-3（P38-6）　円形脱毛症に対するリトレシチニブの安全性・有効性：第 3 相非盲検長期試験の中間解析結果から

木下　美咲[1]〈きのした　みさき〉，Rodney Sinclair[2]，Athanasios Tsianakas[3]，
Alexandre Lejeune[4]
杏林大学皮膚科[1]，Sinclair Dermatology（豪）[2]，Fachklinik（独）[3]，Pfizer（仏）[4]

O8-4（P19-6）　周術期無影灯への曝露対策を講じ，乳房切除術を実施しえた骨髄性プロトポルフィリン症の 1 例

立石芙美香[1]〈たていし　ふみか〉，村山　直也[1]，中牟田瑠璃[1]，田中　　彩[2]，
渡辺　雅久[3]，室田　浩之[1]
長崎大学病院皮膚科・アレルギー科[1]，長崎大学病院腫瘍外科[2]，長崎市[3]

O8-5（P37-6）　当院における化膿性汗腺炎診療の実際

梅田　直樹〈うめだ　なおき〉，天野愛純香，田中友里恵，江川　舞華，石田　貴子
広島県厚生農業協同組合連合会廣島総合病院

O8-6（P41-7）　臨床写真自動整理ソフトウェア・Medical Media Merge の開発

中澤　慎介[1,2]〈なかざわ　しんすけ〉，本田　哲也[1]，伊藤　　悟[3]，可知　匡彦[4]，
村松　　亘[4]
浜松医科大学皮膚科学講座[1]，富士宮市立病院皮膚科[2]，
浜松医科大学産学連携・知財活用センター[3]，株式会社ロジック[4]

O8-7（P39-2）　特発性後天性全身性無汗症に対するステロイドパルス療法の治療成績：単施設後方視的研究

樋口　実里〈ひぐち　みさと〉，鍬塚さやか，早稲田朋香，室田　浩之
長崎大学病院皮膚科・アレルギー科

O8-8（P39-3）　群馬大学皮膚科通院患者における局所多汗症の有病率と様々な皮膚疾患との関連について

小坂　啓寿〈こさか　けいじ〉，内山　明彦，石川　真衣，茂木精一郎
群馬大学大学院医学系研究科皮膚科

イブニングセミナー 6　17:50〜18:50

乾癬の日常診療における看護師を含めた医療従事者の役割の重要性

座長：佐伯　秀久（日本医大）
仲上豪二朗（東京大老年看護学）

ES6-1.　The Team Approach to Psoriasis Management

Chris Griffiths
King's College London and University of Manchester, UK

ES6-2.　The role of nurse specialists in the care of dermatology patients in the United Kingdom

Lucy Moorhead[1,2]
St John's Institute of Dermatology, Guys and St Thomas' NHS Foundation Trust, London[1], British Dermatological Nursing Group[2]

共催：ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社　メディカル部門

第1日目 6月1日（木） 第8会場 3F 304

一般演題 1　9:00〜10:00

基礎研究 ……座長：松岡　悠美（大阪大）
中島沙恵子（京都大）

O1-1 (P1-12)　非アルコール性脂肪肝炎は乾癬モデルマウスの皮膚 IL-23A 遺伝子発現を増強する
竹崎　大輝[1]〈たけざき　だいき〉，向井　知之[2]，井関　將典[2]，橋口　太志[3]，
白方　有香[3]，森実　　真[1]
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学分野[1]，川崎医科大学免疫学[2]，
SMCラボラトリーズ株式会社[3]

O1-2 (P1-13)　神経線維腫腫瘍増殖に影響を及ぼすマスト細胞を中心とした細胞相互作用
山本　美佐〈やまもと　みさ〉，鮫島亜梨沙，山田　典明，児玉　雅季，河野　裕夫
山口大学大学院医学系研究科病態検査学

O1-3 (P1-5)　化膿性汗腺炎患者から分離された細菌の分子疫学的調査
中南　秀将[1]〈なかみなみ　ひでまさ〉，宮崎　裕司[1]，小泉　珠理[1]，中瀬　恵亮[1]，
佐々木　優[23]，林　　伸和[3]
東京薬科大学薬学部臨床微生物学教室[1]，新松戸総合中央病院皮膚科[2]，
虎の門病院皮膚科[3]

O1-4 (P1-7)　グリセリルオクチルアスコルビン酸（GO-VC）の頭皮赤み・痒みに対する効果
皐月　玲子[1]〈さつき　れいこ〉，永田　　武[2]，押田（吉井）唯[2]，伊東　　忍[2]，
貴志　和生[3]
西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院形成外科・美容医療センター[1]，
株式会社アイ・ティー・オー[2]，慶應義塾大学医学部形成外科学教室[3]

O1-5 (P1-10)　高脂肪食の摂取は紫外線照射による皮膚メラニン産生を亢進する
武井　雅弥〈たけい　まさや〉，西中　ゆい，篠崎　優衣，齋藤　凜佳，田端　慶斗，
横山　公紀，今　理紗子，酒井　寛泰，細江　智夫，五十嵐信智
星薬科大学生体分子薬理学研究室

O1-6 (P1-4)　濯ぎの必要ない拭き取り用洗浄剤の開発とその皮膚残留性に関する研究
渡邉　幸夫[13]〈わたなべ　ゆきお〉，川原　貴佳[2]，東　　直行[4]，柴木　千裕[1]，
益永　章裕[2]
明星大学[1]，シャボン玉石けん株式会社[2]，感染症対策研究センター[3]，
花小金井ひがし皮ふ科[4]

O1-7 (P1-8)　摩擦刺激が皮膚に与える影響〜ヒト摘出皮膚を用いた皮膚内部変化の評価〜
禹　　幸玉[1]〈う　へんおく〉，伊藤　千尋[1]，持田佳奈子[1]，高橋美奈子[1]，
石渡　潮路[1]，櫻井　哲人[1]，宮本　曜圭[2]，杉本　孝之[2]，杉本　佳香[2]，武田　　啓[2]
株式会社ファンケル[1]，北里大学形成外科・美容外科[2]

O1-8 (P1-15)　家族性乳房外パジェット病における遺伝子変異解析結果
前田　拓哉[1]〈まえだ　たくや〉，柳　　輝希[1]，西原　広史[2]，小野　裕介[3]，
水上　裕輔[34]，田中　伸哉[5]，氏家　英之[1]
北海道大学皮膚科[1]，
慶應義塾大学医学部臨床研究推進センター・腫瘍センターゲノム医療ユニット[2]，
札幌東徳洲会病院医学研究所[3]，旭川医科大学内科学講座[4]，
北海道大学大学院医学研究院腫瘍病理学教室[5]

一般演題 2　10:00〜11:00

診断法，皮膚検査法 ……座長：前川　武雄（自治医大さいたま医療センター）
岩田　洋平（藤田医大）

O2-1 (P3-5)　本邦での皮膚悪性腫瘍におけるがん遺伝子パネル検査 731 例の解析
岩澤　億斗〈いわさわ　おくと〉，宮川　卓也，尾松　　淳，淡路健太郎，
永井幸司郎，三宅　知美，山田　大資，佐藤　伸一
東京大学医学部附属病院皮膚科

O2-2 (P5-18)　遺伝性血管性浮腫発作抑制薬ベロトラルスタット長期内服によるオンデマンド治療回数の変化
高村さおり[1]〈たかむら　さおり〉，Andrew Smith[2]，Markus Magerl[3]，
Bhavisha Desai[4]，Dianne Tomita[4]，Phil Collis[4]，Laurence Bouillet[5]
埼玉医科大学総合医療センター皮膚科[1]，Allergy Associates of Utah[2]，
Charite-Universitatsmedizin Berlin[3]，BioCryst[4]，Grenoble Alpes University Hospital[5]

O2-3 (P6-1)　当科での皮弁作成術および植皮術における術後感染予防抗菌薬の投与に関する検討
小池　隆弘〈こいけ　たかひろ〉，加藤　　威，浅田　春季，力武　里菜，
杉浦　周嗣，前田　泰広，速水　拓真，米田　健祐，高橋　聡文，藤本　徳毅
滋賀医科大学

O2-4 (P3-3)　テープストリップによって採取したヒト角層中天然保湿因子濃度の評価法確立
館野　　実〈たての　みのる〉，小寺　真央，土井雅津代
鳥居薬品株式会社

O2-5 (P5-2)　アトピー性皮膚炎の治療成功因子に関する横断的研究
佐藤　絵美[1]〈さとう　えみ〉，伊藤宏太郎[1,2]，岩田麻祐子[1]，今福　信一[1]
福岡大学医学部医学科皮膚科[1]，伊藤皮膚科[2]

O2-6 (P5-10)　日本人アトピー性皮膚炎成人患者を対象としたトラロキヌマブ長期投与 ECZTEND 試験 1 年中間解析結果
満間　照之[1]〈みつま　てるゆき〉，加藤　則人[2]，佐伯　秀久[3]，津田雄一郎[4]，
大槻マミ太郎[5]
一宮市立市民病院皮膚科[1]，京都府立医科大学皮膚科学[2]，日本医科大学皮膚科学[3]，
レオファーマ株式会社メディカルアフェアーズ部[4]，自治医科大学皮膚科学[5]

O2-7 (P5-13)　アトピー性皮膚炎治療用の外用薬の使い分けについて
野村　有子〈のむら　ゆうこ〉
野村皮膚科医院

O2-8 (P5-9)　乳幼児アトピー性皮膚炎患者を対象としたデルゴシチニブ軟膏の第 3 相試験
五十嵐敦之[1]〈いがらし　あつゆき〉，中川　秀己[2]，佐伯　秀久[3]，椛島　健治[4]，
玉置　友美[5]，海野　敬修[5]，三輪　宜士[5]
NTT東日本関東病院[1]，東京慈恵会医科大学[2]，日本医科大学[3]，京都大学大学院[4]，
日本たばこ産業株式会社[5]

ランチョンセミナー 7　11:15〜12:15

メラノーマ治療 Up to date―アジュバント療法から進行期治療まで―

座長：藤村　卓（東北大）
吉川　周佐（静岡県立静岡がんセンター）

LS7-1.　メラノーマにおけるアジュバント療法の治療戦略
前川　武雄〈まえかわ　たけお〉
自治医科大学さいたま医療センター皮膚科

LS7-2.　エビデンスと治療経験から考える日本人進行期メラノーマの治療戦略
髙橋　聡〈たかはし　あきら〉
国立がん研究センター東病院皮膚腫瘍科

共催：ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社/小野薬品工業株式会社

一般演題 9　14:30〜15:30

軟部組織疾患，肉芽腫症，メラノサイト系腫瘍，造血器腫瘍

座長：森村　壮志（国際医療福祉大）
藤村　卓（東北大）

O9-1 (P31-4)　BRAF^{V600}変異メラノーマに対するエンコラフェニブ・ビニメチニブ療法の有効性・安全性の検証
日渡　早紀〈ひわたし　さき〉，藤村　卓，神林　由美，玉渕恵里佳，千葉　広夢，天貝　諒，大内謙太郎，橋本　彰，浅野　善英
東北大学皮膚科

O9-2 (P31-2)　インドール系メラニン中間代謝産物の血中濃度測定法の確立とメラノーマへの臨床応用
梅村　啓史[1]〈うめむら　ひろし〉，滝脇　正貴[2]，菊谷　善國[2]，福沢　世傑[2]，阿部健太郎[2]，藤野　清孝[2]，中山　智祥[1]，森実　真[3]，佐藤　守[4]，山﨑　修[5]
日本大学医学部臨床検査医学[1]，日本電子株式会社[2]，
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学[3]，
千葉大学医学部附属病院MS検査診断学[4]，島根大学医学部皮膚科学[5]

O9-3 (P21-4)　当科で経験した肉芽腫性口唇炎 16 例の臨床的検討
齋藤聡一郎〈さいとう　そういちろう〉，高村さおり，人見　勝博，福田　知雄
埼玉医科大学総合医療センター皮膚科

O9-4 (P21-6)　皮膚サルコイドーシスの病型別にみた治療とその反応性―当教室 72 例の集計―
石川　真郷〈いしかわ　まさと〉，山本　俊幸
福島県立医科大学医学部皮膚科

O9-5 (P20-10)　イマチニブが奏功した，縦隔偏位を伴った隆起性皮膚線維肉腫（DFSP），右胸膜転移の 1 例
山川　浩平[1]〈やまかわ　こうへい〉，石川　秀幸[1]，加藤　真吾[2]
横浜市立大学附属病院皮膚科[1]，横浜市立大学附属病院がんゲノム診断科[2]

O9-6 (P21-5)　過去 14 年間に当科を受診したサルコイドーシス患者にみられた瘢痕浸潤の M1，M2 マクロファージ解析
高田　満喜〈たかだ　まき〉，山本　俊幸
福島県立医科大学医学部皮膚科学講座

O9-7 (P21-7)　当科で経験した環状肉芽腫 14 例における Matrix metalloproteinase の発現とその意義
山本美友貴〈やまもと　みゆき〉，山本　俊幸
福島県立医科大学医学部皮膚科学講座

O9-8 (P30-9)　当院で経験した芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍（BPDCN）7 例の検討
田井　志正[1]〈たい　ゆきまさ〉，藤井　洋介[1]，塩入　桃子[1]，北尾　陸将[1]，
長尾　　愛[1]，小倉香奈子[1]，長野　　徹[1]，山下　大祐[2]，平本　展大[3]
神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科[1]，同病理診断科[2]，同血液内科[3]

一般演題 10　15:30〜16:30

上皮性腫瘍，間葉系腫瘍 ……座長：吉野　公二（がん研究会有明病院）
青井　　淳（熊本大）

O10-1 (P27-23)　皮膚付属器癌 80 症例の臨床的特徴，治療方針についての検討
上原　治朗[1]〈うえはら　じろう〉，吉村　有彩[1]，北野　滋久[2]，吉野　公二[1]
公益財団法人がん研究会有明病院皮膚腫瘍科[1]，
公益財団法人がん研究会有明病院先端医療開発センター[2]

O10-2 (P29-6)　タキサン系抗がん剤無効皮膚血管肉腫に対するセカンドライン化学療法の検証：多施設共同研究
藤村　　卓[1]〈ふじむら　たく〉，前川　武雄[2]，伊東　孝通[3]，加藤　裕史[4]，
松下　茂人[5]，吉野　公二[6]，藤澤　康弘[7]，神林　由美[1]，橋本　　彰[1]，浅野　善英[1]
東北大学病院皮膚科[1]，自治医科大学皮膚科[2]，九州大学皮膚科[3]，
名古屋市立大学皮膚科[4]，鹿児島医療センター皮膚腫瘍科[5]，
がん研有明病院皮膚腫瘍科[6]，愛媛大学皮膚科[7]

O10-3 (P27-15)　有棘細胞癌に対してイリノテカン塩酸塩を投与した 6 症例の検討
宗盛　倫子〈むねもり　みちこ〉，水野　隼登，菅　　崇暢，高萩　俊輔，田中　暁生
広島大学大学院医系科学研究科皮膚科

O10-4 (P27-20)　順天堂東京江東高齢者医療センターにおける後期高齢者の皮膚悪性腫瘍統計
長谷川　舞[1]〈はせがわ　まい〉，植木　理恵[2]
順天堂大学大学院医学系研究科皮膚科[1]，順天堂東京江東高齢者医療センター[2]

O10-5 (P27-28)　当院で経験した脂漏性角化症から生じた有棘細胞癌の検討
西原　克彦〈にしはら　かつひこ〉，青木　恵美，佐々木奈津子，後藤　啓介，
松下　茂人
鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科

O10-6 (P29-8)　皮膚血管肉腫肺転移症例に対する肺部分切除術の有用性の検討
角　総一郎[1]〈かど　そういちろう〉，勝又　文徳[1]，佐藤　篤子[1]，神谷　浩二[1]，
前川　武雄[1]，小宮根真弓[1]，大槻マミ太郎[1]，黒崎　史朗[2]，須藤　圭吾[3]，坪地　宏嘉[3]
自治医科大学皮膚科[1]，自治医科大学緩和ケア科呼吸器内科[2]，
自治医科大学呼吸器外科[3]

O10-7 (P29-9)　皮膚に発生した孤発性線維性腫瘍（Solitary fibrous tumor：SFT）の 3 例
浅倉　　鎌〈あさくら　れん〉，花村　拓哉，大河内智子，松田真佑香，榊原　章浩
安城更生病院皮膚科

O10-8 (P29-5)　カポジ肉腫様血管内皮腫における Weibel-Palade 顆粒の関与
松永　拓磨〈まつなが　たくま〉
鳥取大学医学部感覚運動医学講座

イブニングセミナー 7　17:50〜18:50

*BRAF*陽性メラノーマ治療へのアプローチ―基本から応用まで―

座長：藤澤　康弘（愛媛大）
松下　茂人（鹿児島医療センター）

ES7-1.　**メラノーマの診断と治療のポイント―こんな時どうする？―**
大江　秀一〈おおえ　しゅういち〉
大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科

ES7-2.　**進行期 *BRAF* 陽性メラノーマの最新治療戦略―エビデンスと臨床使用経験から―**
吉野　公二〈よしの　こうじ〉
がん研究会有明病院皮膚腫瘍科

共催：小野薬品工業株式会社

第１日目 6月1日（木） 第９会場 3F 311+312

教育実習セミナー『皮膚病理』 14:30〜16:30

「正常皮膚の組織/表皮系腫瘍（1回目）」

オーガナイザー：浅井　　純（京都府立医大）
小川　浩平（奈良県立医大）

※１と２の内容は同じである．
（２は６月３日（土）12：30〜14：30，第９会場にて開催）

ETS2-1.　正常皮膚の組織
馬場　裕子〈ばば　ゆうこ〉
東京歯科大学市川総合病院皮膚科

ETS2-2.　表皮系腫瘍
緒方　　大〈おがた　だい〉
国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科

第1日目 6月1日（木） 第10会場 3F 313+314

一般演題3 9:00〜10:00

薬疹 ……座長：渡邉　裕子（横浜市立大）
濱　　菜摘（新潟大）

O3-1 (P10-12)　薬疹におけるDLSTの陽性率に関与する因子―単一施設後方視的研究―
川村　飛翔[1]〈かわむら　ひしょう〉，渡邉　裕子[1]，高村　直子[1]，今井　紗綾[1]，
鈴木　華織[1]，渡邊　友也[1]，田村　　惇[2]，三枝　祐輔[2]，山口　由衣[1]
横浜市立大学医学部医学研究科環境免疫病態皮膚科学[1]，
横浜市立大学医学部医学研究科臨床統計学[2]

O3-2 (P10-21)　当科で施行した薬剤パッチテスト結果の検討
石川　朋武〈いしかわ　ともむ〉，峠岡　理沙，井岡奈津江，服部　淳子，
水谷　浩美，益田　浩司，加藤　則人
京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学

O3-3 (P10-8)　エンホルツマブ・ベドチンによる薬疹の病理組織学的検討
鈴木紗也佳[1]〈すずき　さやか〉，長谷川瑛人[1]，富井　光一[1]，筒井　由夏[1]，
村田　雅樹[2]，小林　　彩[3]，三村　裕次[4]，阿部理一郎[1]
新潟大学皮膚科[1]，新潟大学泌尿器科[2]，信州上田医療センター皮膚科[3]，
信州上田医療センター泌尿器科[4]

O3-4 (P10-24)　プロテアソーム阻害薬による好中球性皮膚症の2例
趙　　良〈ちょう　りゃんぐ〉，中島沙恵子，加来　　洋，野村　尚史，
神戸　直智，椛島　健治
京都大学医学部皮膚科

O3-5 (P10-4)　COX2阻害剤少量内服でアナフィラキシーが誘発されたNSAIDs過敏症の1例
坊地　　実〈ぼうち　みのり〉，酒井　貴史，後藤妃奈子，宮崎早百合，波多野　豊
大分大学医学部附属病院皮膚科

O3-6 (P10-11)　ヘパリンカルシウム皮下注射により即時型過敏反応を示した妊婦例
大瀧　　薫[1]〈おおたき　かおる〉，石黒　　彩[2]，阪口　百佳[2]，三澤　将大[2]，
伊部　達郎[3]，梅本　尚可[1]，桑田　知之[2]，出光　俊郎[1]
自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科[1]，
自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科[2]，
自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科[3]

O3-7 (P10-15)　セツキシマブとエンコラフェニブの併用療法後に生じたEruptive melanocytic nevi
三上　花子〈みかみ　はなこ〉，赤坂英二郎，中野　　創，澤村　大輔
弘前大学大学院医学研究科皮膚科

O3-8 (P10-16)　エンホルツマブ ベドチン（Enfotrumab Vedotin：EV）により中毒性表皮壊死症（TEN）を発症した1例
井上　栄美[1]〈いのうえ　えみ〉，佐藤　祥奈[1]，林　　美沙[1]，東山　眞里[1]，
王　　聡[2]，垣本　健一[2]，中野　宏明[3]，八木　洋輔[3]
日本生命病院皮膚科[1]，日本生命病院泌尿器科[2]，大阪赤十字病院皮膚科[3]

一般演題 4　10:00〜11:00

蕁麻疹，痒疹・そう痒症 ……座長：千貫　祐子（島根大）
中川　幸延（大阪大）

O4-1 (P8-10)　魚アレルギー 24 例の原因抗原同定と臨床症状および予後の解析
越智　康之〈おち　やすゆき〉，千貫　祐子，山﨑　　修
島根大学医学部付属病院皮膚科

O4-2 (P8-9)　2022 年に当科で経験したコチニールに対する即時型アレルギーの 5 例
鈴木加余子[1,2]〈すずき　かよこ〉，中村　政志[3,4]，佐藤　奈由[3,4]，川出　桃歌[4]，
二村　恭子[1,2]，松永佳世子[3]，矢上　晶子[1,2]
藤田医科大学ばんたね病院総合アレルギー科[1]，
藤田医科大学総合アレルギーセンター[2]，藤田医科大学アレルギー疾患対策医療学[3]，
ホーユー（株）総合研究所[4]

O4-3 (P8-13)　小麦依存性運動誘発アナフィラキシー 10 例における ω-5 グリアジン特異的 IgE の推移
福代　通人〈ふくしろ　みちひと〉，千貫　祐子，山﨑　　修
島根大学医学部附属病院皮膚科

O4-4 (P8-7)　久留米大学皮膚科で経験した遺伝性血管性浮腫 6 例のまとめ
山本紗由美〈やまもと　さゆみ〉，大園　綾花，笹平　摂子，石井　文人，名嘉眞武國
久留米大学医学部皮膚科学教室

O4-5 (P8-11)　yellow urticaria を生じたアナフィラキシーショックの 1 例
清水　佳祐[1]〈しみず　けいすけ〉，葉山　惟大[1,2]，丹羽　悠介[1,2]，細川　　透[3]，
武藤　智和[3]，村田　伸弘[4]，川上　香織[5]，小松　篤史[5]，木下　浩作[3]，奥村　恭男[4]，
川名　　敬[5]，藤田　英樹[1,2]
日本大学医学部皮膚科[1]，日本大学医学部附属板橋病院アレルギーセンター[2]，
日本大学医学部救命救急センター[3]，日本大学医学部循環器内科[4]，
日本大学医学部産婦人科[5]

O4-6 (P9-1)　結節性痒疹患者を対象としたネモリズマブの国内第 2/3 相二重盲検プラセボ対照比較試験成績
横関　博雄[1]〈よこぜき　ひろお〉，松村多加世[2]，駒嵜　　弘[2]
東京医科歯科大学[1]，マルホ株式会社[2]

O4-7 (P8-4)　我が国における慢性特発性蕁麻疹の有病率と疾病負荷
秀　　道広[1,2]〈ひで　みちひろ〉，宇田　晃仁[3]，田中　　暁[3]，槇　芙裕子[3]，
宮川　典子[3]，Sarah Jane McKenna[4]，Shaloo Gupta[5]，Bridget Balkaran[5]，
Maria-Magdalena Balp[6]
広島市立広島市民病院[1]，広島大学[2]，ノバルティスファーマ株式会社[3]，
Novartis Business Services Center[4]，Kantar Health[5]，Novartis Pharma AG[6]

O4-8 (P9-6)　結節性痒疹に対するデュピルマブ第 3 相試験の併合解析：PRIME 及び PRIME2 試験
佐藤　貴浩[1]〈さとう　たかひろ〉，G Yosipovitch[2]，SG Kwatra[3]，N Mollanazar[4]，
S Ständer[5]，E Laws[6]，E Mortensen[7]，G Shi[6]，A Bansal[7]，R Martinčová[6]
防衛医科大学校[1]，マイアミ大学[2]，ジョンズ・ホプキンズ大学[3]，
ペンシルベニア大学[4]，ミュンスター大学[5]，サノフィ[6]，リジェネロン[7]

一般演題 11　14:30〜15:30

光線過敏，創傷，色素異常，母斑，皮膚形成異常

座長：吉田　雄一（鳥取大）
金子　　栄（益田赤十字病院）

O11-1 (P22-4)　名古屋市立大学にて光線検査を実施した患者 61 例の検討

安藤　史佳〈あんどう　ふみか〉，山本　　礼，榎本　由季，中川　結愛，
櫻井　麻衣，金山　佳史，鳥居　　寛，松原　章宏，井汲今日子，森田　明理
名古屋市立大学大学院医学研究科加齢・環境皮膚科学

O11-2 (P23-2)　当院における強皮症合併重症下肢虚血 7 例の臨床学的検討

松田　吉弘[1]〈まつだ　よしひろ〉，三宅　智子[1]，戸田　洋伸[2]，立花　宏太[1]，
野村　隼人[1]，平井　陽至[1]，川上　佳夫[1]，迫田　直也[3]，廣田　真規[3]，森実　　真[1]
岡山大学学術研究院医歯薬学域皮膚科学[1]，
岡山大学学術研究院医歯薬学域循環器内科学[2]，
岡山大学学術研究院医歯薬学域心臓血管外科[3]

O11-3 (P23-3)　皮下深部解離性血腫を生じた 4 例

大潮　雄大〈おおしお　ゆうだい〉，牧野　貴充
地方独立行政法人くまもと県北病院皮膚科

O11-4 (P24-1)　色素再生を認めたまだら症の 15 年の経過

三澤　　恵〈みざわ　めぐみ〉，牧野　輝彦，清水　忠道
富山大学医学部学術研究部皮膚科

O11-5 (P25-5)　ブロスマブが奏効した，低リン血症性骨軟化症を伴う表皮母斑症候群の 1 例

林　真衣子[1]〈はやし　まいこ〉，吉田　　諭[1]，八束　和樹[1]，藤淵　剛次[2]，
中口　博允[3]，黒尾　優太[1]，村上　正基[1]，藤澤　康弘[1]
愛媛大学皮膚科[1]，愛媛大学整形外科[2]，愛媛大学第3内科[3]

O11-6 (P22-2)　EPP 及び XLP を対象としたデルシメラゴンの海外第 2 相試験：スキンタイプ別サブグループ解析

川井　康司〈かわい　こうじ〉，柳内　嘉在，河合　衣里，近藤　和興
田辺三菱製薬株式会社育薬本部

O11-7 (P26-1)　病的変異と考えられた in-frame variant を認めた血管型エーラス・ダンロス症候群（vEDS）の 2 例

吉田　　愛〈よしだ　あい〉，林　周次郎，井川　　健
獨協医科大学病院

O11-8 (P26-7)　SLCO2A1 遺伝子変異を有する完全型肥厚性皮膚骨膜症にアセトアミノフェンが有効であった 1 例

竹上　智也[1]〈たけがみ　ともや〉，野村　尚史[1]，米倉　　慧[1]，吉田　和恵[2]，
関　　敦仁[3]，中林　一彦[4]，久松　理一[5]，新関　寛徳[2]，椛島　健治[1]
京都大学皮膚科[1]，国立成育医療研究センター皮膚科[2]，同整形外科[3]，
同周産期病態研究部[4]，杏林大学消化器内科[5]

一般演題 12　15:30〜16:30

皮膚感染症

座長：夏秋　優（兵庫医大）
新原　寛之（島根大）

O12-1 (P33-11)　当科で経験した下肢ガス壊疽 32 例の検討
黒神　祐〈くろかみ　ゆう〉，坂本　理佳，後藤　範子，横見　明典
市立豊中病院皮膚科

O12-2 (P32-11)　国内感染したサル痘の 1 例
土屋茉里絵〈つちや　まりえ〉，安西　秀美
川崎市立井田病院皮膚科

O12-3 (P33-9)　剖検を施行した進行大腸がんに併発した *Clostridium septicum* によるガス壊疽の 1 例
炭竈　晏奈[1]〈すみがま　あんな〉，加納　宏行[1]，後藤　祐介[1]，大野　義幸[2]，
大畠　博人[3]，奥野　充[4]，小野木朱音[5]，渡部　直樹[5]，田中　卓二[5]
岐阜市民病院皮膚科[1]，同整形外科[2]，同麻酔科[3]，同消化器内科[4]，同病理診断科部[5]

O12-4 (P33-4)　明らかな免疫不全なく発症した悪性梅毒の 1 例
牧野　公治[1]〈まきの　こうじ〉，大山　文悟[2]
国立病院機構熊本医療センター皮膚科[1]，大山皮膚科医院[2]

O12-5 (P33-13)　鼻根外傷部位に生じた *Nocardia beijingensis* による原発性皮膚ノカルジア症の 1 例
和田　麻依[1]〈わだ　まい〉，太田　志野[1]，河原　由恵[1]，三上万理子[2]，矢口　貴志[3]
けいゆう病院[1]，横浜西口菅原皮膚科[2]，千葉大学真菌医学研究センター[3]

O12-6 (P34-1)　広範な皮膚潰瘍に至った播種性クリプトコッカス症の 1 例
金田　恵実〈かねだ　えみ〉，郷田　彩，安藤　純実，調　裕次
第二大阪警察病院皮膚科

O12-7 (P35-2)　サリドマイドにより治療したらい性結節性紅斑の 1 例
山田　悠人[1,2]〈やまだ　ゆうと〉，山北　高志[1,3]，榊原　潤[1,4]，石井　則久[5]，
山崎　正視[5]，杉浦　一充[1]
藤田医科大学医学部皮膚科学[1]，刈谷豊田総合病院[2]，
藤田医科大学岡崎医療センター[3]，公立西知多総合病院[4]，国立療養所多磨全生園[5]

O12-8 (P36-2)　治療前の疥癬に IgA 血管炎を併発して診断に難渋した 1 例
岡田　寛文〈おかだ　ひろふみ〉，神谷　浩二，佐藤　篤子，前川　武雄，
小宮根真弓，大槻マミ太郎
自治医科大学附属病院皮膚科

第1日目 6月1日（木） 第11会場 3F 315

教育実習セミナー『皮膚外科』 9:00〜11:20

ベーシックコース ……オーガナイザー：大原　國章（赤坂虎の門クリニック）
竹之内辰也（新潟県立がんセンター新潟病院）

技術協力：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 エチコン事業部

教育実習セミナー『皮膚外科』 14:30〜16:50

アドバンスコース ……オーガナイザー：大原　國章（赤坂虎の門クリニック）
竹之内辰也（新潟県立がんセンター新潟病院）

技術協力：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 エチコン事業部

第1日目 6月1日（木） 第12会場 5F 511+512

Oral Presentation in English 1 9:00～10:00

Chairs：Sayaka Shibata（The University of Tokyo）
Ken Natsuga（Hokkaido University）

E1-1 (EP2-5) Soluble PD-L1 Predicts Severe Immune-related Adverse Events In Melanoma Patients

○Kazumasa Oya[1)], Yoshiyuki Nakamura[1)], Satoshi Matsusaka[2)], Toshifumi Nomura[1,3)], Yasuhiro Fujisawa[3)]
Department of Dermatology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba[1)], Department of Clinical Research and Regional Innovation, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba[2)], Department of Dermatology, Ehime University Graduate School of Medicine, Toon[3)]

E1-2 (EP1-2) Involvement of Zinc Deficiency in Pruritus Possibly via Mu-Opioid Receptor Signal

○Hozumi Sano, Tokuko Oguro, Kimiko Nakajima, Mikiro Takaishi, Shigetoshi Sano
Department of Dermatology, Kochi Medical School, Kochi University, Nankoku

E1-3 (EP1-1) Lipid Molecular Localization Analysis of Skin Tissue by Imaging Mass Microscopy

○Shown Tokoro[1)], Tadayuki Ogawa[2)], Ken Igawa[1)]
Department of Dermatology, Dokkyo Medical University, Shimotsuga[1)], Department of Research Center for Advanced Medical Sciences, Dokkyo Medical University, Shimotsuga[2)]

E1-4 (EP2-2) Detection of human papillomavirus from cutaneous warts comparing skin surface material

○Yuko Kuriyama[1)], Mieko Kosaka[2)], Akira Kaneko[2)], Hirokazu Nishioka[2)], Kazushi Anzawa[3)], Tomoyasu Hattori[4)], Naoya Igarashi[5)], Masaaki Tamura[6)], Sei-ichiro Motegi[1)], Akira Shimizu[3)]
Department of Dermatology, Gunma University Gratuate School of Medicine, Maebashi[1)], Diagnostics Division, Maruho Co., Ltd.[2)], Department of Dermatology, Kanazawa Medical University, Kanazawa[3)], Hattori Dermatology Clinic, Takasaki[4)], Igarashi Dermatology Clinic, Maebashi[5)], Department of Dermatology, Sano Kousei General Hospital, Sano[6)]

E1-5 (EP2-4) The development of PPP-AI

○Kosuke Shido[1)], Kaname Kojima[2)], Toshiyuki Yamamoto[3)], Koremasa Hayama[4)], Arisa Hirayama[5)], Satomi Kobayashi[5)], Masahiro Okura[6)], Namiko Abe[6)], Yukari Okubo[6)], Tadashi Terui[4)]
Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Tohoku University, Sendai[1)], Tohoku Medical Megabank Organization, Tohoku University, Sendai[2)], Department of Dermatology, Fukushima Medical University, Fukushima[3)], Division of Cutaneous Science, Department of Dermatology, Nihon University School of Medicine, Tokyo[4)], Department of Dermatology, Seibo International Catholic Hospital, Tokyo[5)], Department of Dermatology, Tokyo Medical University, Tokyo[6)]

E1-6 (EP2-3) **A Case Of Crohn's Disease Diagnosed By Persistent Lip Swelling**

○Yoshinori Muto, Takashi Okamoto, Youichi Ogawa, Shinji Shimada, Tatsuyoshi Kawamura
Department of Dermatology, Faculty of Medicine, University of Yamanashi, Kofu

E1-7 (EP3-1) **A case of thymoma-associated GVHD-like erythroderma effectively treated with IVIg**

○Hibari Nakajima[1], Kureha Nakagawa[1], Shoko Watanabe[1], Asami Takehana[1], Sonoko Jikuya[1], Harunari Shimoyama[1], Tomomitsu Miyagaki[2], Takafumi Kadono[2], Megumi Hirabayashi[1], Yoshihiro Kuwano[1]
Department of Dermatology, Teikyo University Hospital, Mizonokuchi[1], Department of Dermatology, St. Marianna University Hospital, Kawasaki[2]

E1-8 (EP3-2) **Subcorneal Pustular Dermatosis：A Systematic Review Of A Rare And Underdiagnosed Disease**

○Mason H Crossman[1,2], Alysha Vuong[2], Jeffrey Weng[2], Felix Liu[1,3], Christopher Y Chew[1,3], Sangho Lee[3], Adam Lapidus[4], Tanishq Khandelwal[5]
Department of Dermatology, Alfred Hospital, Melbourne, Melbourne[1], College of Medicine and Public Health, Flinders University, Adelaide[2], Department of Medicine, Monash University, Melbourne[3], Department of Medicine, Melbourne University, Melbourne[4], School of Medicine and Public Health, University of Newcastle, Newcastle[5]

Oral Presentation in English 2 10:00～11:00

Chairs：Yu Sawada（University of Occupational and Environmental Health）
Keitaro Fukuda（Keio University）

E2-1 (EP8-7) **Single-cell immune profiling of tumor-infiltrating lymphocytes in acral melanoma**

○Tomoyuki Minowa[1,2], Kenji Murata[2], Yoshihiko Hirohashi[2], Sayuri Sato[1], Kohei Horimoto[1], Junji Kato[1], Toshihiko Torigoe[2], Hisashi Uhara[1]
Department of Dermatology, Sapporo Medical University School of Medicine, Sapporo[1], Department of Pathology, Sapporo Medical University School of Medicine, Sapporo[2]

E2-2 (EP8-10) **Utility Of Circulating Tumor DNA Testing To Detect Recurrence Of Merkel Cell Carcinoma**

○Tomoko Akaike[1], Daniel S Hippe[2], Paul Nghiem[1], Lisa Zaba[3]
Division of Dermatology University of Washington, Seattle[1], Fred Hutchinson Cancer Research Center, Seattle[2], Stanford University Medical Center and Cancer Institute Department of Dermatology/Cutaneous Oncology, Palo Alto[3]

E2-3 (EP4-1) **A National Database Study of Sentinel Lymph Node Biopsy Performance for Melanoma in Japan**

○Shogo Wada[1], Dai Ogata[1], Eiji Nakano[1], Kenjiro Namikawa[1], Tomone Watanabe[2], Taisuke Ishii[2], Yuichi Ichinose[2], Ryoko Rikitake[2], Takahiro Higashi[2], Naoya Yamazaki[1]
Department of Dermatologic Oncology, National Cancer Center Hospital, Tokyo[1], Division of Health Services Research, Institute for Cancer Control, National Cancer Center, Tokyo[2]

E2-4 (EP8-1) **Two-year analysis of postoperative adjuvant therapy in 120 Japanese melanoma patients**

○Yusuke Muto[1], Taku Fujimura[1], Hiroshi Kato[2], Satoshi Fukushima[3], Takamichi Ito[4], Takeo Maekawa[5], Shoichiro Ishizuki[6], Hiroshi Uchi[7], Shigeto Matsushita[8], Yoshihide Asano[1]
Department of Dermatology, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai[1], Department of Geriatric and Environmental Dermatology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, Nagoya[2], Department of Dermatology and Plastic Surgery, Faculty of Life Sciences, Kumamoto University, Kumamoto[3], Department of Dermatology, Graduate School of Medical Science, Kyushu University, Fukuoka[4], Department of Dermatology, Jichi Medical University, Shimotsuke[5], Department of Dermatology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba[6], Department of Dermato-Oncology, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, Fukuoka[7], Department of Dermato-Oncology/Dermatology, National Hospital Organization Kagoshima Medical Center, Kagoshima[8]

E2-5 (EP8-6) **Therapeutic effect of S-1 for locally-advanced cutaneous squamous cell carcinoma.**

○Teruaki Izumi, Yukiko Teramoto, Reiichi Doi, Anna Kamimura, Sayaka Takai, Tatsuhiko Mori, Yasuhiro Nakamura
Department of Skin Oncology/Dermatology, Saitama Medical University International Medical Center, Hidaka

E2-6 (EP8-5) **Rechallenge with Brentuximab Vedotin in Refractory Mycosis Fungoides**

○Hikaru Kawahara, Yu Sawada, Etsuko Okada
Department of Dermatology, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu

E2-7 (EP8-8) **Primary Dermal Melanoma Systematic Review**

○Lawrence Lin[1], Zhao Feng Liu[2], Raaisa Islam[3], Ibukun Oloruntoba[1], Ojochonu Anthony[1], Timothy Widjaja[1], Christopher Y Chew[1,2]
Faculty of Medicine, Nursing and Health Sciences, Monash University, Melbourne[1], Department of Dermatology, Alfred Health, Melbourne[2], The Skin Hospital, Sydney[3]

E2-8 (EP8-2) **A Case of Cutaneous Melanocytoma With *TRIM11* Gene Rearrangement**

○Aiko Nambu[1], Tomoe Nakagawa[1], Taisuke Matsuya[1], Mari Kishibe[1], Isao Tandai[2], Tadashi Hasegawa[3], Toru Motoi[4], Akemi Ishida-Yamamoto[1]
Department of Dermatology, Asahikawa Medical University, Asahikawa[1], Department of Plastic Surgery, Japanese Red Cross Asahikawa Hospital, Asahikawa[2], Department of Diagnostic Pathology, Sapporo Medical University, Sapporo[3], Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, Tokyo[4]

Oral Presentation in English 3 14:30～15:30

Chairs：Katsunari Makino（Kumamoto University）
Satoru Shinkuma（Nara Medical University School of Medicine）

E3-1 (EP5-2) **Human β-defensin-3-induced keratinocyte autophagy attenuates atopic dermatitis symptoms**

○Ge Peng
Atopy（Allergy）Research Center, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo

E3-2 (EP7-1) **No Mucous Involvement in Pemphigoid with Antibodies to the β3 Subunit of Laminin-332**

○Hanako Miyahara[1], Kazumasa Oya[1], Noriko Kubota[1], Norito Ishii[2], Toshifumi Nomura[1]
Department of Dermatology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba[1], Department of Dermatology, Kurume University School of Medicine, Kurume[2]

E3-3 (EP7-5) **Anifrolumab treatment for various subtypes of cutaneous lupus erythematosus in SLE cases**

○Haruka Koizumi, Yoshinao Muro, Satoshi Kamiya, Norika Akashi, Satoko Imai, Yuta Yamashita, Mariko Ogawa-Momohara, Takuya Takeichi, Masashi Akiyama
Department of Dermatology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya

E3-4 (EP7-7) **A case of non-bullous pemphigoid mimicking as intractable eczematous eruptions**

○Noriko Kagawa[1], Yoko Akamatsu[2], Kayo Yamamoto[1], Yu Sawada[1], Etsuko Okada[1]
Department of Dermatology, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu[1], Shimonoseki Medical Center, Shimonoseki[2]

E3-5 (EP7-8) **Melanocyte-specific T Cells Remain Active in Vitiligo after Systemic Steroid Therapy**

○Kazunori Yokoi[1], Rei Watanabe[1], Miki Kume[1], Saki Yamane[1], Atsushi Tanaka[2], Manabu Fujimoto[1], Atsushi Tanemura[1]
Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka[1], Department of Experimental Immunology, Immunology Frontier Research Center, Faculty of Medicine, Osaka University, Osaka[2]

E3-6 (EP5-8) **Early prognostic biomarkers in Steven-Johnson Syndrome/Toxic Epidermal Necrolysis**

○Christopher Y Chew[1], Zhao Feng Liu[1,2], Dale Jobson[1], Adithya Shastry[1,5], Miki Wada[1,3], Zhengyang Liu[1,4], Ella Ryan[1,2], Nidhin Kuruvilla[2], Michelle Goh[1], Douglas Gin[1]
Department of Dermatology, Alfred Health, Melbourne[1], Department of Medicine, Monash University, Melbourne[2], Monash Health, Melbourne[3], Royal Melbourne Hospital, Melbourne[4], ANU College of Health and Medicine, Australian National University, Canberra[5]

E3-7 (EP7-9) **Ultrasound Visualizes Peripheral Vascular Dysfunction I in Systemic Sclerosis**

○Kazuhiro Komura[1], Minoru Hasegawa[2]
Department of Dermatology, Kanazawa Red Cross Hospital, Japanese Red Cross Society, Kanazawa[1], Department of Dermatology, Division of Medicine, Faculty of Medical Sciences, University of Fukui, Fukui[2]

E3-8 (EP7-6) **Lupus panniculitis of the scalp presenting as an arc-shaped non-scarring alopecia**

○Yuki Kobayashi[1], Toyoko Inazumi[1], Kana Tamura[1], Yuka Shintani[1], Akiko Tanikawa[2]
Department of Dermatology, Tachikawa Hospital, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations, Tokyo[1], Samoncho Dermatology Clinic, Tokyo[2]

Oral Presentation in English 4 15:30～16:30

Chairs：Gyohei Egawa（Kyoto University）
Takuya Takeichi（Nagoya University）

E4-1 (EP10-1) Characteristics of post-COVID-19 alopecia in hospitalized Japanese patients

○Umi Tahara[1,2], Keitaro Fukuda[1], Hiroshi Kawasaki[1], Masataka Saito[1], Hideki Terai[3], Ho Namkoong[4], Makoto Ishii[3,5], Koichi Fukunaga[3], Masayuki Amagai[1]
Department of Dermatology, Keio University School of Medicine, Tokyo[1], Department of Dermatology, Kawasaki Municipal Hospital, Kanagawa[2], Division of Pulmonary Medicine, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo[3], Department of Infectious Diseases, Keio University School of Medicine, Tokyo[4], Department of Respiratory Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya[5]

E4-2 (EP9-1) Dupilumab improved loose skin folds in a case with cutis laxa and atopic dermatitis

○Tatsuya Katsumi[1], Ryota Hayashi[1], Shingo Takei[1], Rei Yokoyama[1], Osamu Ansai[1], Satoru Shinkuma[1,2], Riichiro Abe[1]
Division of Dermatology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata[1], Department of Dermatology, Nara Medical University, Kashihara[2]

E4-3 (EP10-7) Prozone Phenomenon in Primary Syphilis with HIV-positive and Penicillin Allergy

○Nahda Yaumil Chair Haq[1], Idrianti Idrus[1], Suci Budhiani[1], Silvia Veronica[2]
Department of Dermatology and Venereology, Faculty of Medicine, Hasanuddin University, Makassar[1], Department of Dermatology and Venereology Gatot Soebroto Army Hospital, Jakarta[2]

E4-4 (EP11-2) Immune Checkpoint Inhibitor Related Urticaria：A Case-Control Study with Cytokine Profiles

○Tsun-Hao Hsu, Shih-Wen Hsu, Wen-Hung Chung, Chun-Bing Chen
Department of Dermatology, Chang Gung Memorial Hospital, Linkou Branch, Taoyuan City

E4-5 (EP10-2) Two cases of Herpes zoster with Ocular symptoms due to Cranial nerve palsy

○Airi Miyazawa[1], Keiko Takeda[1], Sawa Ootubo[1], Kyoko Kanno[1], Mari Kishibe[1], Akemi Ishida-Yamamoto[1], Jun Sawada[2], Kohei Kano[2], Rui Fushitu[3], Kouji Takarada[3]
Department of Dermatology, Asahikawa Medical University, Asahikawa[1], Department of Neurology, Asahikawa Medical University, Asahikawa[2], Department of Ophthalmology, Asahikawa Medical University, Asahikawa[3]

E4-6 (EP10-8) LEPROSY MIMICKING SINONASAL TUMOR：A CASE REPORT

○Thomas Utomo[1], Khairuddin Djawad[2], Anni Adriani[2], Safruddin Amin[2], Dirmawati Kadir[1], Andi Nurhaerani Zainuddin[1]
Department of Dermatology and Venereology Faculty Medicine of Hasanuddin University, Makassar[1], Wahidin Sudirohusodo General Hospital, Makassar[2]

E4-7 (EP10-9) Cutaneous Candidiasis in a Child with Acute Lymphoblastic Leukemia

○Aurora Pelangi Fajriana[1], Anis Irawan Anwar[2], Faridha Tabri[2], Faridha Ilyas[2], Nurelly N Waspodo[1], Andi Hardianty[1], Thomas Utomo[1]
Department of Dermatology & Venereology Faculty Medicine of Hasanuddin University, Makassar[1], Wahidin Sudirohusodo General Hospital, Makassar[2]

E4-8 (EP11-3) N95 Mask Related Skin Disease Amongst Healthcare Workers：a Cross Sectional Study

○Raaisa Islam[1)], Nishan Amerasinghe[2)], Douglas Gin[2)], Christopher Y Chew[2,3)]
The Skin Hospital, Sydney[1)], Department of Dermatology, Alfred Health, Melbourne[2)], Department of Dermatology, Monash Health, Melbourne[3)]

第1日目 6月1日（木） 第13会場 4F 411+412

一般演題5 9:00〜10:00

炎症性角化症，膿疱症，紅斑症 ……座長：藤田　英樹（日本大）
鎌田　昌洋（帝京大）

O5-1 (P13-3)　掌蹠の角化が目立ち ATP2A2 遺伝子の新規ミスセンス変異がみられた Darier 病の 1 例
吉田　　愛[1]〈よしだ　あい〉，端本　宇志[1]，鈴木　花瑠[1]，Kwesi Teye[2]，
石井　文人[2]，佐藤　貴浩[1]
防衛医科大学校皮膚科[1]，久留米大学皮膚科[2]

O5-2 (P15-4)　掌蹠膿疱症患者を対象とした Brodalumab の第 III 相試験の 68 週投与データ
村上　正基[1]〈むらかみ　まさもと〉，大久保ゆかり[2]，小林　里実[3]，佐野　栄紀[4]，
菊田奈津子[5]，大内　喜海[5]，照井　　正[6]
愛媛大学大学院医学系研究科皮膚科学[1]，東京医科大学皮膚科学分野[2]，
聖母病院皮膚科[3]，高知大学医学部皮膚科学講座[4]，協和キリン株式会社[5]，
日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分野[6]

O5-3 (P14-14)　COVID-19 罹患後に発症した小児汎発型膿疱性乾癬の 1 例
持丸奈央子[1]〈もちまる　なおこ〉，田中　　諒[1]，福田　里紗[1]，橋本　玲奈[1]，
石川　尊士[2]，河合　利尚[2]，吉田　和恵[1]
国立成育医療研究センター皮膚科[1]，国立成育医療研究センター免疫科[2]

O5-4 (P14-15)　福島県立医科大学皮膚科で経験した扁平苔癬 66 例の臨床亜型ならびに要因について
猪狩　翔平〈いがり　しょうへい〉，菊池　信之，大塚　幹夫，山本　俊幸
福島県立医科大学皮膚科

O5-5 (P12-1)　乾癬型薬疹と鑑別を要した thymoma-associated multiorgan autoimmunity の 1 例
兵部　理恵[1]〈ひょうぶ　りえ〉，森　　美穂[1]，藤森　一希[1]，島井友佳子[1]，
内藤万希子[2]，増田　眞之[2]，大平　達夫[3]，池田　徳彦[3]，大久保ゆかり[1]，原田　和俊[1]
東京医科大学皮膚科学分野[1]，東京医科大学神経学分野[2]，
東京医科大学呼吸器・甲状腺外科学分野[3]

O5-6 (P12-3)　当科において経験した結節性紅斑 87 症例における，原因疾患の変遷を含めた検討
草野美沙希〈くさの　みさき〉，山本　俊幸
福島県立医科大学皮膚科学講座

O5-7 (P13-4)　長島型掌蹠角化症とアトピー性皮膚炎の合併に関する検討
山本　史徳〈やまもと　ふみのり〉，岡田　寛文，佐藤　篤子，神谷　浩二，
前川　武雄，小宮根真弓，大槻マミ太郎
自治医科大学皮膚科

O5-8 (P14-7)　中等症から重症の乾癬患者における CT での偶発的所見の検討
杉原　夏子[1]〈すぎはら　なつこ〉，神谷　浩二[1]，角　総一郎[1]，岸本　恵美[1]，
桑原　　理[1]，菅井　順一[1]，三重野牧子[2]，小宮根真弓[1]，大槻マミ太郎[1]
自治医科大学皮膚科[1]，自治医科大学情報センター[2]

一般演題 6　10:00〜11:00

水疱症

座長：山上　淳（東京女子医大）
高橋　勇人（慶應義塾大）

O6-1 (P16-20)　母乳中に自己抗原反応性 IgA が認められた Neonatal linear IgA bullous dermatosis の 1 例

橋本　真哉[1]〈はしもと　しんや〉，福本　毅[1]，吉田　憲司[2]，堀之内智子[3]，
市川　裕太[3]，田中　悠[3]，藤村　順也[4]，野津　寛大[3]，石河　晃[2]，久保　亮治[1]
神戸大学皮膚科[1]，東邦大学医療センター大森病院皮膚科[2]，神戸大学小児科[3]，
加古川中央市民病院小児科[4]

O6-2 (P16-3)　抗 IL-23p19 抗体グセルクマブの奏功した抗 p200 類天疱瘡

北山　祥平〈きたやま　しょうへい〉，虎井僚太郎，森　修一，片岡　和也，
古川　史奈，林　政雄，三澤　恵，牧野　輝彦，清水　忠道
富山大学附属病院皮膚科

O6-3 (P16-18)　好中球細胞外トラップとマトリックスメタロプロテアーゼ 9 発現好中球を認めた線状 IgA 水疱性皮膚症

杉浦利一郎〈すぎうら　りいちろう〉，端本　宇志，石塚友記子，佐藤　貴浩
防衛医科大学校皮膚科

O6-4 (P16-1)　尿管癌に対するペンブロリズマブ投与中に発症した水疱性類天疱瘡の 1 例

山内　悠大[1]〈やまうち　ゆうだい〉，藤崎美沙子[1]，東田晋太郎[1]，笠松　宏至[1]，
知野　剛直[1]，尾山　徳孝[1]，長谷川　稔[1]，小林　久人[2]，関根　史織[3]
福井大学皮膚科[1]，福井大学泌尿器科[2]，福井総合クリニック皮膚科[3]

O6-5 (P16-2)　免疫チェックポイント阻害薬使用後に生じた掌蹠に多発した表皮下水疱症の 1 例

市來　尚久[1]〈いちき　なおひさ〉，辻　宙[1]，藤井　建人[1]，丹羽　宏文[1]，
牧山　明資[2]，岩田　浩明[1]
岐阜大学大学院医学系研究科皮膚科[1]，岐阜大学医学部附属病院がんセンター[2]

O6-6 (P16-21)　丘疹紅皮症に似た臨床像を呈した IgM 類天疱瘡の 3 例

杉山　聖子[1]〈すぎやま　せいこ〉，山本　剛伸[2]，青山　裕美[1]
川崎医科大学皮膚科[1]，川崎医科大学総合医療センター皮膚科[2]

O6-7 (P16-12)　穿孔性皮膚症を合併した DPP-4 阻害薬関連水疱性類天疱瘡の 1 例

塩入　桃子[1]〈しおいり　ももこ〉，藤井　洋介[1]，北尾　陸将[1]，田井　志正[1]，
小倉香奈子[1]，長野　徹[1]，泉　健太郎[2]
神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科[1]，北海道大学病院皮膚科[2]

O6-8 (P16-4)　抗てんかん薬による CYP3A4 誘導作用のためステロイド抵抗性となった難治性水疱性類天疱瘡の 1 例

浅川　理子〈あさかわ　りこ〉，小川　陽一，前島　えり，田渕亜希子，岡本　崇，
三井　広，島田　眞路，川村　龍吉
山梨大学皮膚科

一般演題 13　14:30〜15:30

血管炎，血管奇形，自己炎症性疾患 ……座長：池田　高治（東北医科薬科大）
福永　　淳（大阪医科薬科大）

O13-1 (P11-13)　皮膚動脈炎 25 例における治療抵抗性因子の検討
荒川　　遥〈あらかわ　はるか〉，乙竹　　泰，渡邊　友也，山口　由衣
横浜市立大学皮膚科

O13-2 (P11-19)　当科で経験したベーチェット病に伴う皮膚血管炎における neutrophil extracellular traps の関与
平岩　朋子〈ひらいわ　ともこ〉，山本　俊幸
福島県立医科大学皮膚科

O13-3 (P11-2)　関節症性乾癬にブロダルマブを投与中に発症した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の 1 例
越後　岳士[1)]〈えちご　たけし〉，筒井　清広[1)]，松本　泰子[2)]，西　　耕一[3)]
石川県立中央病院皮膚科[1)]，同脳神経内科[2)]，同呼吸器内科[3)]

O13-4 (P11-17)　演題取下げ

O13-5 (P11-12)　新規 *GLMN* 変異を認めた Glomuvenous malformation の孤発例
寺田　明莉[1)]〈てらだ　あかり〉，赤坂英二郎[1)]，中野　　創[1)]，野村　和夫[2)]，
澤村　大輔[1)]
弘前大学大学院医学研究科皮膚科[1)]，青山のむら皮膚科[2)]

O13-6 (P18-7)　耳介軟骨炎を初発症状とした VEXAS 症候群の 1 例
樫野かおり[1)]〈かしの　かおり〉，土田奈緒美[2,3,4)]，前田　彩花[2)]，内山　由理[3,4)]，
桐野　洋平[2)]，松本　直通[3)]
尾道市立市民病院皮膚科[1)]，横浜市立大学大学院医学研究科幹細胞免疫制御内科学[2)]，
横浜市立大学大学院医学研究科遺伝学[3)]，横浜市立大学附属病院難病ゲノム診断科[4)]

O13-7 (P11-10)　第 XIII 因子製剤の投与が IgA 血管炎による腹痛に奏功した 1 例
上原　　遥〈うえはら　はるか〉，石川　桐子，宮城　拓也，高橋　健造
琉球大学皮膚科学講座

O13-8 (P11-18)　ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液が有効であった肢端紅痛症の 1 例
王　　黎亜[1)]〈おう　りや〉，成富真由香[2)]，川上　将司[3)]，宮崎　佳子[4)]，大石　善丈[4)]，
井手　豪俊[1)]
飯塚病院皮膚科[1)]，九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野[2)]，飯塚病院循環器内科[3)]，
飯塚病院病理科[4)]

一般演題 14　15:30〜16:30

皮膚炎・湿疹 ……座長：益田　浩司（京都府立医大）
市山　　進（日本医大）

O14-1 (P7-1)　アトピー性皮膚炎における fused S100 蛋白質の発現は IL-4/13 刺激に依存する―3D 皮膚モデル解析―
牧野　輝彦[1)]〈まきの　てるひこ〉，竹本　景太[1)]，三澤　　恵[1)]，山本　誠士[2)]，
清水　忠道[1)]
富山大学学術研究部医学系皮膚科学[1)]，富山大学学術研究部医学系病理学[2)]

O14-2 (P7-4)　実臨床における中等症～重症のアトピー性皮膚炎に対するウパダシチニブの有効性と安全性

萩野　哲平[1)]〈はぎの　てっぺい〉，佐伯　秀久[2)]，神田奈緒子[1)]
日本医科大学千葉北総病院皮膚科[1)]，日本医科大学皮膚科[2)]

O14-3 (P7-6)　Dupilumab は AD 患者皮膚で Fibronectin と Fibrinogen の発現を抑制し，S. aureus の接着を制御する

縄田　寿克〈なわた　ひさかつ〉
サノフィ

O14-4 (P7-16)　アトピー性皮膚炎に対しウパダシチニブ投与後の皮膚炎改善と患者報告アウトカムに関する考察

寺本　薫子〈てらもと　かおるこ〉，岸本　　泉，谷崎　英昭
関西医科大学附属病院皮膚科学講座

O14-5 (P7-2)　成人アトピー性皮膚炎患者における Dupilumab による睡眠の質，不安，抑うつの改善

紀氏　優子[1)]〈きし　ゆうこ〉，JF Merola[2)]，AS Chiou[3)]，E During[3)]，A Costanzo[4)]，
P Foley[5)]，M Ardeleanu[6)]，J Wu[1)]，ZE Ozturk[1)]
サノフィ[1)]，Harvard Univ.[2)]，Stanford Univ.[3)]，Humanitas Univ.[4)]，
Skin Health Institute/Australia[5)]，Regeneron[6)]

O14-6 (P7-5)　中等症～重症のアトピー性皮膚炎患者におけるバリシチニブ 4mg 継続/減量による有効性（52-104 週）

益田　浩司[1)]〈ますだ　こうじ〉，Andreas Wollenberg[2)]，Thomas Werfel[3)]，
Hamish J.A. Hunter[4)]，Andrew S. Buchanan[5)]，花田　孝雄[6)]，Na Lu[7)]，
Jacob P. Thyssen[8)]
京都府立医科大学[1)]，Ludwig Maximillian Univ Hosp[2)]，Hannover Med Sch[3)]，
Salford Care Org[4)]，Eli Lilly and Company[5)]，日本イーライリリー[6)]，
Precision Statistics Consulting[7)]，Bispebjerg Hosp[8)]

O14-7 (P7-8)　日本人患者を対象としたウパダシチニブ第 3 相試験結果―Rising Up 160 週成績―

池田　政憲[1,2)]〈いけだ　まさのり〉，リウ　ジョン[3)]，新山　勇人[4)]，
レイムンド　エリザ[3)]，佐々木拓也[4)]，ティシェラ　エリンケ[3)]，加藤　則人[5)]
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学[1)]，福山市民病院小児科[2)]，
AbbVie Inc.[3)]，アッヴィ合同会社[4)]，京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学[5)]

O14-8 (P7-14)　アトピー性皮膚炎におけるマクロファージガラクトース型 C 型レクチン陽性自然免疫細胞の関与

善家由香理[1,4)]〈ぜんけ　ゆかり〉，伝田　香里[4)]，恒田　直人[2)]，新井　　達[1)]，
入村　達郎[5)]，池田　志斐[3)]
聖路加国際病院皮膚科[1)]，同病理診断科[2)]，
順天堂大学大学院医学研究科皮膚アレルギー学[3)]，同難病の診断と治療研究センター[4)]，
同大学乳腺腫瘍学講座糖鎖創薬研究室[5)]

第１日目 6月1日（木） ポスター展示会場 1F展示ホールA・B

研究費ならびに研究基金受領者研究発表 18:30〜19:50

座長：奥山　隆平（信州大）

令和４年度日本皮膚科学会基礎医学研究費（資生堂寄付）受領者研究発表

SH-1.　上皮組織損傷応答性幹細胞の制御機序の解明
小住　英之〈こすみ　ひでゆき〉
北海道大学大学院医学研究院皮膚科学教室

SH-2.　脂肪細胞を軸とした全身性強皮症の血管障害に関する病態解析
宮川　卓也〈みやがわ　たくや〉
東京大学医学部皮膚科

SH-3.　T細胞を抗原特異的に皮膚へ遊走させるメカニズムの解明
江川　形平〈えがわ　ぎょうへい〉
京都大学大学院医学研究科皮膚科

SH-4.　アトピー性皮膚炎における循環脂質異常の病態意義：角層脂質異常との関連を含めて
酒井　貴史〈さかい　たかし〉
大分大学医学部皮膚科学講座

SH-5.　炎症性皮膚疾患におけるS100A2の役割についての解析
澤田　雄宇〈さわだ　ゆう〉
産業医科大学皮膚科

SH-6.　酒さのメカニズムの解明―インフラマソームの関与と黄連解毒湯やバイカリンによる抑制機序の解明―
中原真希子〈なかはら　まきこ〉
九州大学大学院医学研究院皮膚科

令和４年度日本皮膚科学会炎症性皮膚疾患研究費（アッヴィ助成）受領者研究発表

AB.　便秘に依存する腸内細菌叢変化と尋常性ざ瘡の皮膚免疫応答の変化解析
松岡　悠美[1,2]〈まつおか　ゆうみ〉
大阪大学免疫学フロンティア研究センター皮膚アレルギー生体防御[1]，
大阪大学免疫学フロンティア研究センター皮膚免疫学[2]

令和３年度日本皮膚科学会皮膚医学研究基金（ロート製薬寄付）受領者研究発表

RT-1.　単球・マクロファージ分化・形質異常に基づく全身性強皮症の病態解析
山口　由衣〈やまぐち　ゆきえ〉
横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学

RT-2.　皮膚上皮細胞の細胞死誘導メカニズムの網羅的解析
村田　光麻〈むらた　てるあさ〉
兵庫医科大学皮膚科学教室

令和３年度日本皮膚科学会基礎研究助成（ノバルティス ファーマ寄付）受領者研究発表

NV1-1.　魚鱗癬の病態における表皮脂質異常・バリア障害と炎症との相互作用の解明
秋山　真志〈あきやま　まさし〉，武市　拓也，棚橋　華奈，滝　　奉樹
名古屋大学大学院医学系研究科皮膚科学分野

令和４年度日本皮膚科学会基礎研究助成（ノバルティス ファーマ寄付）受領者研究発表

NV2-1.　長島型掌蹠角化症を切り口にした新規 mRNA 品質管理機構の解明

乃村　俊史〈のむら　としふみ〉
筑波大学医学医療系皮膚科

NV2-2.　シングルセルトランスクリプトーム解析を通した特発性後天性全身性無汗症の病態解明と治療標的同定

本田　哲也〈ほんだ　てつや〉
浜松医科大学皮膚科学講座

NV2-3.　C10orf99 ペプチドによる表皮の生体防御とバリア調節機構

大日　輝記〈だいにち　てるき〉
香川大学医学部皮膚科学